



世界選手権の男子チームスプリント

シクリスムエコー No.197 2013年2月号



2013年UCIトラック世界選手権大会 ..... 2



'12-'13 UCIトラック・ワールドカップ・クラシックス#3 ..... 4



2013年UCI シクロクロス世界選手権大会 ..... 5

2013年ツアー・オブ・カタール ..... 6

2013年ツアー・オブ・オマーン ..... 7



第7回明治神宮外苑大学クリテリウム ..... 8

オーストラリアユースオリンピックフェスティバル2013 .. 9

連盟の動き ..... 10

今後の大会予定 ..... 10

各強化合宿など ..... 11

2013年UCIトラック世界選手権大会 PHOTO ..... 12



日本が生んだ世界のスポーツ

**KEIRIN**



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringing-keirin.jp>

KEIRIN 00  
この大会は競輪の補助金を受けて派遣されました



2013年  
UCIトラック  
世界選手権大会

男子 1kmTT の新田



男子ケイリンの渡邊



男子スプリントの中川



男子スプリントの河端



女子チームスプリント、前田(右)と石井

2月20日から24日まで、ベラルーシ・ミンスクのミンスクアリーナでUCIトラック世界選手権大会が開催された。

ミンスクアリーナは2009年完成した、メインアリーナ・自転車競技場・アイススケートリンクからなるスポーツコンプレックスで、アイスホッケーなどの国際大会が開催されている会場でもある。

今大会は世界35の国と地域から参加があり、男子4名、女子2名の合計6名の選手が日本代表として参加した。

第1日目午後の部、男子チームパースhoot予選と女子個人パースhootの予選が行われたが、どちらも日本人の参加はなかった。

インターバルをおいた夜の部、女子チームスプリント予選に、石井・前田の日本チームが出場し、35秒320で8位となった。また、男子1kmタイムトライアルには新田が出場。1組スタートで1分02秒934を出したが、11位に終わった。

第2日目午後の部、男子チームスプリント予選に、中川・新田・渡邊の日本チームが出場。期待された最終組スタートであったが、44秒332の7位に終わった。

また夜の部最初の種目、女子500mタイムトライアルには前田が出場したが、35秒495で12位に甘んじた。この種目ではホンコンチャイナのLEE Wai Szeが33秒973で見事世界チャンピオンとなった。

第3日目午後の部、女子スプリント予選では、前田が11秒605で19位、石井が11秒674で20位となり、1/16決勝に進んだ。しかし予選タイム上

位者との対戦で、残念ながら両者とも1/8決勝へ進むことはできなかった。

続いての男子ケイリン1回戦は、各組2名が2回戦へ進出することができる。しかし、2組の新田が4位、3組の渡邊が6位で両者とも敗者復活戦へまわることになった。

敗者復活戦の勝ち上がりは1名だけという厳しい戦い。3組に新田が出場、惜しくも2着でゴールするが、最終スプリント時のライン不保持で5位に降格となる。また4組に渡邊が出場するが5位に終り、両者とも2回戦へは進めず、この日夜の部への出場者はいなくなってしまった。

第4日目午後の部、男子スプリント予選に渡邊、中川、河端が出場。中川が10秒159で16位、河端が10秒283で24位、渡邊が10秒312で26位となった。この結果、中川と河端が1/16決勝へ進出、残念ながら渡邊は予選敗退となった。

男子オムニアムの個人追抜競走をはさんで、次に男子スプリント1/16決勝が行われた。河端は予選トップのPERVIS Francois (FRA) と、中川は予選9位のBULLEN Mitchell (AUS) と対戦するが残念ながら2人とも敗れてしまう。これで最終日の日本人出場種目は無くなってしまった。

夜の部では、女子ポイントレースに石井が出場。序盤、オランダのWILD Kirstenの逃げについた石井は1回目のスプリントポイントで3点を獲得したが、その後の周回アップやスプリントポイントに絡むことができず12位でレースを終了した。

これで、最終日を残して日本選手団の戦いは終わった。

## 【競技結果】

### 2013年UCIトラック世界選手権大会 (2013/2/20-24 ベラルーシ・ミンスク)

#### 男子スプリント

1	BOTTICHER Stefan	GER	
2	DMITRIEV Denis	RUS	
3	PERVIS Francois	FRA	
17	中川 誠一郎	JPCA JPCU 熊本	1/16F 敗退
24	河端 朋之	JPCA JPCU 岡山	1/16F 敗退
26	渡邊 一成	JPCA JPCU 福島	予選敗退

#### 男子1km タイムトライアル

1	PERVIS Francois	FRA	1:00.221
2	VAN VELTHOOVEN Simon	NZL	1:00.869
3	EILERS Joachim	GER	1:01.450
11	新田 祐大	JPCA JPCU 福島	1:02.934

#### 男子ケイリン

1	KENNY Jason	GBR	
2	LEVY Maximilian	GER	
3	BUCHLI Matthijs	NED	
25	新田 祐大	JPCA JPCU 福島	
25	渡邊 一成	JPCA JPCU 福島	

#### 男子チームスプリント

1	ドイツ	43.495
2	ニュージーランド	43.544
3	フランス	43.798
7	日本 新田・渡邊・中川	44.332

#### 女子500m タイムトライアル

1	LEE Wai Sze	HKG	33.973
2	WELTE Miriam	GER	33.996
3	JAMES Rebecca	Angharad GBR	34.133
12	前田佳代乃	鹿児島 鹿屋体育大	35.495

#### 女子スプリント

1	JAMES Rebecca	Angharad GBR	
2	VOGEL Kristina	GER	
3	LEE Wai Sze	HKG	
19	前田佳代乃	鹿児島 鹿屋体育大	1/16F 敗退
20	石井 寛子	東京 競輪学校	1/16F 敗退

#### 女子ポイントレース (25km)

1	MACHACOVA Jarmila	CZE	30p
2	ARREOLA NAVARRO Sofia	MEX	29p
3	BRONZINI Giorgia	ITA	22p
12	石井 寛子	東京 日本競輪学校	3p

#### 女子チームスプリント

1	ドイツ	33.053
2	中国	33.083
3	イタリア	33.893
8	日本 前田・石井	35.320

### 2013トラック世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2013年トラック世界選手権大会

開催場所 ベラルーシ・ミンスク

大会期間 2013年2月20日～24日

派遣期間 2013年2月15日～26日

代表選手団

監督 松本 整 (ナショナルチーム総監督)

コーチ 坂本 勉 (ナショナルコーチ)・村田 正洋 (アシスタントコーチ)

沖 美穂 (強化アドバイザー)

メカニック 森 昭雄 (強化スタッフ)

マッサー 柳 浩史 (強化スタッフ)・森 典隆 (強化スタッフ)

ドクター 金井 貴夫 (支援ドクター)

選手 中川 誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本)・渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島)

新田 祐大 (JPCA・JPCU 福島)・河端 朋之 (JPCA・JPCU 岡山)

石井 寛子 (東京・日本競輪学校)

前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)



# '12-'13 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス #3



## 渡邊がケイリンで銀メダル!



銀メダルを持つ渡邊

2012-2013トラックワールドカップ第3戦アグアスカリエンテス大会(2013年1月17日~19日)にメディカルドクターとして帯同して参りました。競技会場は標高1800mにあり、日中は26~27℃まで気温が上がるのに対して、夜間は0℃近くまで下がり気温の日内変動が大きく、体調を崩す選手の出る極めてタフな環境でした。このような高地で競技が行われるのであれば、事前に高地トレーニングや高地馴化が必要であろうと私自身は不安を抱きながら大会入りしました。

そんな不安をよそに、日本人選手たちは大活躍でした。大会2日目の男子ケイリンでは渡邊一成が銀メダルを獲得しました。金メダルまで30cm足らずの差でした。最終日には、男子スプリントで中川誠一郎が素晴らしいレースを展開しました。結果は惜しくも4位に終わりましたが、ファイナルに残った4人は誰が金メダルをとってもおか

しくない僅差でした。その他、男子スプリント予選で3人、女子スプリント予選で2人、女子チームスプリントでそれぞれ日本新記録を出しました。

メキシコでの自転車競技人気にも圧倒されました。競技場は割れんばかりの大歓声があり、日本選手団などの選手が競技場

から出るとサインや写真を求める人がたくさん集まっています。

私のチーム帯同は、1年前のロンドンでのワールドカップ以来でしたが、日本チーム、そして選手個々の1年間の成長を目の当たりにしました。3年半後のリオデジャネイロオリンピックに向けて幸先のいいスタートを切ったと思います。今後もベラルーシで行われる世界選手権をはじめ、大会や合宿などを通してチームの成長を見守りつつ、医学的サポートを精一杯させていただきます。(金井貴夫)

### [競技結果]

'12-'13UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス #3 (2013/1/17-19 メキシコ・アグアスカリエンテス)

#### 男子スプリント

- 1 DMITRIEV Denis RVL
- 2 NIEDERLAG Max GER
- 3 PERALTA GASCON Juan NAV
- 4 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本
- 13 渡邊 一成 CCT JPCA・JPCU 福島

- 17 河端 朋之 CCT JPCA・JPCU 岡山
- 37 和田真久留 JPCA JPCU 神奈川

#### 男子ケイリン

- 1 BUCHLI Matthijs NED
- 2 渡邊 一成 CCT JPCA・JPCU 福島
- 3 PERVIS Francois FRA
- 21 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本

#### 男子チームスプリント

- 1 ERSHOV Artur RVL 16p
- 2 BRISSE Vivien FRA 39p
- 3 RYBIN Ondrej CZE 42p
- 15 橋本 英也 岐阜 鹿屋体育大学 90p

#### 男子チームスプリント

- 1 ニュージーランド 43.052
- 2 フランス 43.186
- 3 オーストラリア 43.584
- 12 CCT 河端・坂本・渡邊 44.466

#### 女子スプリント

- 1 GONG Jinjie GPC
- 2 GUERRA RODRIGUEZ Lisandra CUB
- 3 LEE Wai Sze HKG
- 8 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学
- 16 石井 寛子 CCT 東京・日本競輪学校
- 19 加瀬加奈子 JPCA JPCU 新潟

#### 女子ケイリン

- 1 ZHONG Tianshi CHN
- 2 GONG Jinjie GPC
- 3 XU Yulei CHN
- 12 石井 寛子 CCT 東京・日本競輪学校
- 12 加瀬加奈子 JPCA JPCU 新潟
- 20 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大学

#### 女子チームスプリント

- 1 オーストラリア 33.033
- 2 中国 33.307
- 3 ロシア 33.567
- 6 日本 前田・加瀬 34.805

photo: 若生武則



## 2013年UCIシクロクロス世界選手権大会

男子・竹之内 31位、女子・豊岡 26位



2013シクロクロス世界選手権がアメリカ・ケンタッキー州ルイビルで開催された。会場はオハイオ川の河川敷を使った平地の部分と、一段あがった道路のある土手を使っており、コースは土手の上の舗装路、芝地のハイスピード部分、3ヶ所の階段、シケイン、急な登り返しなどひじょうに変化に富んでいる。大会前の天候は悪く、雪や泥の悪コンディションになることが予想された。大会は当初2日間のスケジュールであったが、隣接するオハイオ川の水位上昇により会場の低い部分の水没する可能性が出たため、すべてのレースが土曜日開催となった。

2月2日、朝一でジュニアのレースがスタート。前日より少し気温が上がり、凍った路面は表面が溶け始め滑りやすくなっていた。山田は良いスタートをきったが、序盤コースフェンスに引っかかり大きく出遅れた。機材交換後は調子よく追いつけたが、序盤のロスを挽回することができずにレースを終えた。ジュニアのレースは時間が短いだけに、一つのミスが結果を大きく左右してしまう。

11時からの女子のレースには豊岡と福本が出走。福本は序盤出遅れてしまったが、中盤には豊岡とほぼ一緒のポジションまであがった。しかし、後半になるにつれコースコンディションが悪化し、2選手ともペースが落ちてしまい、途中80%ルール適用でレースを終えた。

12時半からのU23には中井と前田が出走。前田は好スタートをきり、一時は10位台の位置まであげた。しかし、舗装路など踏むところでのスピードが伸びず、次第に順位を落とす結果となった。一方の中井はスタートで出遅れたが、素晴らしい追い上

げをみせた。周回ごとに順位をあげ、トップから6分2秒遅れの34位でゴール。テクニクが上達したことに加え、ロード・トラックで走れる足を生かすことができた。前田は残念ながら途中80%ルール適用でレースを終えた。

最終レースはエリート。国内2連覇の竹之内と小坂が出走。3レースを終えた路面はかなり荒れ、かなりのパワーが必要なコースとなった。好スタートをきったのは小坂。ひじょうに良い走りだったが、序盤機材を壊し大きく遅れをとってしまった。一方、竹之内はスタートで大きく出遅れた。しかし、猛烈な追い上げをみせ、レース中盤までに中位の集団までジャンプアップすることができた。過酷なレースになったが、トップから5分47秒遅れの31位でゴール。悪コンディションでゴールができたのは一歩レベルアップできた証である。

日本選手は年々レベルアップしているが、世界もレベルアップしている。ジュニア・女子で結果を残すことができなかったのは非常に残念だったが、難コースに対応できる体力レベル、スキル、テクニクの向上をはかり、更なる上位を目指せるよう若手選手を中心に強化したい。(澤田 雄一)

## 【競技結果】

2013年UCIシクロクロス世界選手権大会 (2013/2/2-3 アメリカ・ルイビル)

## 男子エリート

1	NYS Sven	BEL	1:05:35
2	VANTORNOUT Klaas	BEL	+0:02
3	VAN DER HAAR Lars	NED	+0:25
31	竹之内 悠	京都 Colba-Superano	+5:47
39	小坂 光	長野 ブリッツェンシクロクロス	-5laps

## 男子U23

1	TEUNISSEN Mike	NED	48:40
2	BOSMANS Wietse	BEL	+0:14
3	VAN AERT Wout	BEL	+0:22
34	中井 路雅	滋賀 岩井商会	+6:02
36	前田 公平	東京 Speedvagen	-1lap

## 男子ジュニア

1	VAN DER POEL Mathieu	NED	40:47
2	BUDDING Martijn	NED	+0:57
3	TOUPALIK Adam	CZE	+1:19
33	山田 誉史輝	長野 Happy Ride	-3laps

## 女子エリート

1	VOS Marianne	NED	43:00
2	COMPTON Katherine	USA	+1:34
3	CHAINEL-LEFEVRE Lucie	FRA	+2:10
26	豊岡 英子	大阪 パナソニックレディーズ	-1lap
30	福本 千佳	大阪 同志社大学	-2laps

2013年UCIシクロクロス世界選手権大会  
日本代表選手団

大会名 2013年UCIシクロクロス世界選手権大会  
開催場所 アメリカ・ルイビル  
大会期間 2013年2月2日・3日

代表選手団

エリート男子 竹之内 悠

(京都・COLBA-SUPERANO HAM)

小坂 光

(長野・宇都宮ブリッツェンシクロクロス)

エリート女子 豊岡 英子

(大阪・パナソニックレディーズ)

福本 千佳

(大阪・同志社大学)

U23男子 中井 路雅

(滋賀・岩井商会レーシング)

前田 公平

(東京・Speedvagen Cyclocross Team)

ジュニア男子 山田 誉史輝

(長野・HAPPY RIDE)



## 2013年ツアー・オブ・カタール

## クイックステップのカヴェンディッシュが総合優勝



ツール・ド・フランスを開催しているASOが主催するツアー・オブ・カタールが2月3日から8日まで開催された。強豪揃いの中、ステージ序盤なかなか上位を目指すことができない日本チームだったが、第3ステージでは4名がトップ集団ゴールで、清水が18位に入った。

第4ステージは序盤から3名の選手が逃げ最大6分前後まで集団を引き離すが、後半集団の猛追走にラスト5kmで惜しくも集団に吸収され、昨日同様、大集団のゴール勝負となる。ラスト1km4～5番手にいた清水が蛇行してきた選手にハスって落車した選手を交わし切れず落車惜しくも入賞を逃す。

第5ステージは154km、ドーハから100km移動したAL Zubara Fortがスタート地点。風が弱くスタートからアタック合戦となるが集団から抜け出せないレース展開が続く中、60km過ぎに内間を含む5名の選手が集団からのアタックに成功、徐々に集団を引き離し2分50秒差で逃げる。

88.5km地点のスプリントで一気にペースの上があった集団は、3集団に分裂メイン集団は逃がっている内間のトップグループを猛追撃、タイム差が一気に詰まり、110km地点で惜しくもメイン集団に吸収され周回コースに入る。同時に2名の選手が集団から抜け出し15秒前後で逃げるが、ラスト2kmで集団に吸収されると、そのままゴールスプリントとなってカヴェンディッシュが優勝、3ステージ連続優勝を飾った。昨日落車した清水選手は背骨の横突起が骨折、オマーンレースは厳しく参加しない事を決定。

最終ステージは116.5km、ドーハ郊外から60km離れた町をスタートして、ドーハのメインストリート海岸沿の周回コース(6km/周)を10周しゴール。緩い追い風に乗ってハイスピードのレース展開となるが、レースリーダーのカヴェンディッシュが落車、集団は一定ペースとなりカヴェンディッシュが集団に復帰するまでアタックが掛からない状況がプロ意識を見たような気がした。

間もなくして集団から3名の選手がア

タック、すぐに佐野が追走し前の3名に追い付き逃げのレース展開を作るが、集団の追撃が激しく間もなく吸収され大集団のままドーハのメインストリート海岸沿いの周回コースに入る。

完全にクイックステップチームが集団をコントロール、最終周回有カチチームの強力なアタック合戦となるが、カヴェンディッシュは微動だにせず、激戦となったゴールスプリントを制し4連勝、総合1位に輝いた。(高橋 松吉)

## 【競技結果】

## 2013年ツアー・オブ・カタール(2013/2/3-8 総計)

## 個人総合成績

1	CAVENDISH Mark OPQ	15:55.20
2	BOOKWALTER Brent BMC	15:55.45
3	PHINNEY Taylor BMC	15:55.46
76	別府 史之 JPN OGE	16:12.33
91	西谷 泰治 愛知 愛三工業	16:13.45
92	盛 一大 愛知 愛三工業	16:13.45
96	鈴木 讓 神奈川 シマレーシング	16:14.00
106	畑中 勇介 東京 シマレーシング	16:14.44
122	内間 康平 沖縄 チーム NIPPO	16:16.34
	佐野 淳哉 埼玉 Vini Fantini	DNF
	清水 都貴 JPCA プリヂェストン	DNF

## STAGE1 145km (2013/2/3)

1	BOOKWALTER Brent BMC	3:28.47
2	ELMIGER Martin IAM	3:28.47
3	RAST Gregory RLT	3:28.47
105	畑中 勇介 東京 シマレーシング	+16.02
116	鈴木 讓 神奈川 シマレーシング	+16.02
127	清水 都貴 JPCA プリヂェストン	+16.02
130	佐野 淳哉 埼玉 Vini Fantini	+16.02
133	内間 康平 沖縄 チーム NIPPO	+16.02
137	盛 一大 愛知 愛三工業	+16.02
138	西谷 泰治 愛知 愛三工業	+16.02

## STAGE2 159km (2013/2/4)

1	BOOKWALTER Brent BMC	3:44.44
2	PHINNEY Taylor BMC	3:44.50
3	BLYTHE Adam BMC	3:44.54
121	畑中 勇介 東京 シマレーシング	4:02.44
122	清水 都貴 JPCA プリヂェストン	4:02.44
123	佐野 淳哉 埼玉 Vini Fantini	4:02.44
124	盛 一大 愛知 愛三工業	4:02.44
125	西谷 泰治 愛知 愛三工業	4:02.44
130	鈴木 讓 神奈川 シマレーシング	4:02.59
133	内間 康平 沖縄 チーム NIPPO	4:03.30

## STAGE3 143km (2013/2/5)

1	CAVENDISH Mark OPQ	3:05.14
2	MARKUS Barry VCD	3:05.14
3	KRUOPIS Aidis OGE	3:05.14
18	清水 都貴 JPCA プリヂェストン	3:05.14
46	鈴木 讓 神奈川 シマレーシング	3:05.14
80	西谷 泰治 愛知 愛三工業	3:05.14
88	盛 一大 愛知 愛三工業	3:05.14
108	畑中 勇介 東京 シマレーシング	+0.32
111	内間 康平 沖縄 チーム NIPPO	+0.33
120	佐野 淳哉 埼玉 Vini Fantini	+1.05

## STAGE4 160km (2013/2/6)

1	CAVENDISH Mark OPQ	3:30.05
2	MARKUS Barry VCD	3:30.05
3	GUARDINI Andrea AST	3:30.05
18	西谷 泰治 愛知 愛三工業	3:30.05
34	盛 一大 愛知 愛三工業	3:30.05
54	佐野 淳哉 埼玉 Vini Fantini	3:30.05
78	鈴木 讓 神奈川 シマレーシング	3:30.05
97	内間 康平 沖縄 チーム NIPPO	+1.30
109	畑中 勇介 東京 シマレーシング	+1.49
132	清水 都貴 JPCA プリヂェストン	+2.31

## STAGE5 154km (2013/2/7)

1	CAVENDISH Mark GBR	3:11.11
2	HUTAROVICH Yauheni ALM	3:11.11
3	KRUOPIS Aidis OGE	3:11.11
53	鈴木 讓 神奈川 シマレーシング	3:11.11
55	盛 一大 愛知 愛三工業	3:11.11
68	西谷 泰治 愛知 愛三工業	3:11.11
96	佐野 淳哉 埼玉 Vini Fantini	+0.13
100	畑中 勇介 東京 シマレーシング	+0.27
121	内間 康平 沖縄 チーム NIPPO	+0.57
	清水 都貴 JPCA プリヂェストン	DNF

## STAGE6 116.5km (2013/2/8)

1	CAVENDISH Mark OPQ	2:24.31
2	HUTAROVICH Yauheni ALM	2:24.31
3	MARKUS Barry VCD	2:24.31
21	盛 一大 愛知 愛三工業	2:24.31
25	西谷 泰治 愛知 愛三工業	2:24.31
38	鈴木 讓 神奈川 シマレーシング	2:24.31
86	畑中 勇介 東京 シマレーシング	2:24.31
106	内間 康平 沖縄 チーム NIPPO	+0.33
	佐野 淳哉 埼玉 Vini Fantini	DNF

2013年ツアー・オブ・カタール  
/ ツアー・オブ・オマーン  
日本代表選手団

大会名 2013年ツアー・オブ・カタール  
/ ツアー・オブ・オマーン

開催場所 カタール/オマーン

大会期間 2月3日～8日:カタール  
2月11日～16日:オマーン

派遣期間 2013年1月31日～2月17日

代表選手団

監督 高橋 松吉 (JCF 強化コーチ)

支援スタッフ 橋川 健

(JCF ロード競技部会支援スタッフ)

メカニック 鬼原 積 (JCF 強化スタッフ)

中村 仁

(JCF ロード競技部会支援スタッフ)

マッサージ 石田 宗男 (JCF 強化スタッフ)

穴田 悠吾

(JCF ロード競技部会支援スタッフ)

選手 佐野 淳哉 (埼玉・VINI FANTINI)

西谷 泰治 (愛知・愛三工業レーシング)

盛 一大 (愛知・愛三工業レーシング)

畑中 勇介 (東京・シマレーシング)

鈴木 讓 (神奈川・シマレーシング)

清水 都貴 (JPCA・プリヂェストンアンカー)

内間 康平 (沖縄・チーム NIPPO)

木下 智裕 (神奈川・エカース)

※個人総合成績以外の日本人の競技結果はナショナルチームのみ。なお第2ステージはチームタイムトライアルですが、各個人のタイムを掲出しています。

## 2013年ツアー・オブ・オマーン

## 総合は西谷の32位が最高位

## &lt;第1ステージ&gt;

前日のミーティングで「逃げます!」と言い切っていた内間がスタート後1kmでチャンピオンシステムのポビー・トラクセルと2名で飛び出した。2名は最高で8分のアドバンテージを保っていたが、区間優勝を狙うアルゴスシマノが集団のペースをコントロール。内間はラスト10kmで集団に吸収された。集団スプリントでは西谷が18位だった。

## &lt;第2ステージ&gt;

スタート直後からアタックが繰り返され、約15名が集団を先行。集団が吸収した所で、昨日逃げたチャンピオンシステムのトラクセルと、木下が集団を飛び出し、今日も序盤の逃げに日本選手を送り込む事に成功した。2人はラスト25kmの山岳ポイント前で集団につかまり、ここからコンタドル介するサクソヤサガンを紹介するキャノンデールのコントロールにより、ラスト5kmの最後の山岳ポイントを迎えた。6名に先行されたものの、7位以降の約40名の集団に西谷が残り、総合順位を16位に上げた。同タイムで約40名がいるので、総合は意識せずに明日も区間を狙いに行く。

## &lt;第3ステージ&gt;

今日もスタート直後からチャンピオンシステムのジャン(韓国)、バルディアニヴァルヴォレのデルステレ(イタリア)、そして日本から畑中が加わり3人の逃げが決まった。しばらくして、この3名に敢闘賞ジャージを着用したトラクセルが追撃し合流。4名の逃げが決まった。最高で約9分を先行したが、1回目の山岳賞(90km)で集団のペースが上がり、その差は一気に30秒まで詰まった。トラクセルがエスケープを諦め、集団に吸収されたことでメイン集団はペースを落とし、逃げる畑中等の集団との差は再び3分以上に開いた。韓国人、イタリア人は集団に吸収されたが、畑中は1人で逃げ続けるも、ラスト20kmで集団に吸収された。

ラスト10kmは小さな起伏を繰り返し、ゴールは約500mの登りとなる。西谷、佐野は中切れにあい先頭から遅れてしまったが、明日は最もハードな山岳ステージなので気持ちを切り替えて臨む。

## &lt;第4ステージ&gt;

今日は平均勾配10%以上の登りが約6km続く山頂がフィニッシュとなる。スタート直後からアタックが繰り返され、ハイペースの中からカチューシャ、ラジオシャック、BMC等を5名の逃げが決まった。日本チームも内間、木下の若手が積極的に反応したが、逃げに乗る事ができなかった。

5名はラスト10kmで吸収され、峠へと続く平坦も登りへの位置取り争いでハイペースのまま登りに突入した。日本チームは登りの入り口で西谷を集団の前方に引き上げる事を想定していたが、集団の前に出るこ

とができずに集団の中盤に埋もれてしまった。西谷は優勝したカチューシャのホアキン・ロドリゲスから3分48秒遅れの35位でフィニッシュした。

## &lt;第5ステージ&gt;

今日はラスト40kmから標高差200mを越える峠が3つ続く。後半の峠に備え、リーダーのフルームの所属するスカイのアシストの崩壊を狙った、コンタドルの所属するサクソ、ロドリゲスの所属するカチューシャの選手達を中心にアタックが繰り返され、スタート直後からハイペースな展開が続いた。小さな起伏のあるコースにも関わらず最初の1時間の平均時速は44km。ハイペースな展開の中から9名の逃げが決まり4分前後のアドバンテージを作った。このレース展開を左右する逃げは予測されたものであり、日本チームからも逃げに加わる事を一つの目標にしていたが、残念ながら誰も逃げに加わることはできなかった。

ラスト40kmの峠で連日アタックを見せた畑中が遅れ、続いて木下も遅れた。西谷はC.フルーム、A.コンタドル、J.ロドリゲス、D.インペイの先頭集団4名から1分51秒遅れの42位でフィニッシュ。明日は最終日。区間8位入賞を目標に頑張る。

## &lt;第6ステージ&gt;

最終日のステージは全体的にフラットなコースで、総合成績もポイント賞、敢闘賞等もほぼ決まっていたので、SKYが逃げを許し、集団をコントロールしながら、レースが進む事を予測した。日本チームの戦略として逃げに加わる事も想定していたが、カチューシャ、バルディアニニ、バカンソレイユの3名の逃げには加わる事はできなかった。できれば、敢闘賞の総合成績で賞金圏内にいた内間が加わる事が理想だったが、まだ実力不足だった。

終始SKYのコントロールで集団は安定したペースで進み、ゴール周回(7km×2周)に入り、逃げの3名を吸収。周回コース上の600mほどの登りでメイン集団は140名から80名に絞られ、ゴールスプリントでは盛が16位に入った。(橋川 健)

## 【競技結果】

## 2013年ツアー・オブ・オマーン(2013/2/11-16 オマーン)

## 個人総合成績

1	FROOME Christopher	GBR	23:28.33
2	CONTADOR Alberto	ESP	23:29.00
3	EVANS Cadel	AUS	23:29.12
32	西谷 泰治	愛知 愛三工業	23:34.53
36	西園 良太	チャレジオシステム	23:37.26
59	別府 史之	リカグリーンエッジ	23:45.34
71	鈴木 讓	神奈川 シマレーシング	23:49.45
72	佐野 淳哉	埼玉 Vini Fantini	23:50.01
117	盛 一大	愛知 愛三工業	24:02.01
130	内間 康平	沖縄 チームNIPPO	24:06.04
136	木下 智裕	神奈川 エカース	24:15.12
137	畑中 勇介	東京 シマレーシング	24:23.33

## STAGE1 162km (2013/2/11)

1	KITTEL Marcel	ARG	4:04.59
---	---------------	-----	---------

2	APPOLLONIO Davide	ALM	4:04.59
3	BOUHANNI Nacer	FDJ	4:04.59
18	西谷 泰治	愛知 愛三工業	4:04.59
33	鈴木 讓	神奈川 シマレーシング	4:04.59
79	佐野 淳哉	埼玉 Vini Fantini	4:04.59
96	木下 智裕	神奈川 エカース	4:04.59
101	畑中 勇介	東京 シマレーシング	4:04.59
106	盛 一大	愛知 愛三工業	4:04.59
135	内間 康平	沖縄 チームNIPPO	+0.49

## STAGE2 146km (2013/2/12)

1	SAGAN Peter	CAN	3:48.36
2	GALLOPIN Tony	RLT	+0.05
3	ELMIGER Martin	IAM	+0.05
43	西谷 泰治	愛知 愛三工業	+0.11
57	鈴木 讓	神奈川 シマレーシング	+1.13
61	佐野 淳哉	埼玉 Vini Fantini	+1.37
111	盛 一大	愛知 愛三工業	+3.23
134	畑中 勇介	東京 シマレーシング	+5.33
136	内間 康平	沖縄 チームNIPPO	+5.33
139	木下 智裕	神奈川 エカース	+7.38

## STAGE3 190km (2013/2/13)

1	SAGAN Peter	CAN	5:06.28
2	VAN AVERMAET Greg	BMC	+0.01
3	GALLOPIN Tony	RLT	+0.01
39	佐野 淳哉	埼玉 Vini Fantini	+0.33
42	西谷 泰治	愛知 愛三工業	+0.33
64	鈴木 讓	神奈川 シマレーシング	+0.58
127	内間 康平	沖縄 チームNIPPO	+5.06
128	盛 一大	愛知 愛三工業	+5.33
137	木下 智裕	神奈川 エカース	+6.41
141	畑中 勇介	東京 シマレーシング	+8.20

## STAGE4 143.5km (2013/2/14)

1	RODRIGUEZ OLIVER Joaquin	KAT	3:34.48
2	FROOME Christopher	SKY	+0.04
3	EVANS Cadel	BMC	+0.22
35	西谷 泰治	愛知 愛三工業	+3.48
43	佐野 淳哉	埼玉 Vini Fantini	+5.00
48	鈴木 讓	神奈川 シマレーシング	+5.24
118	盛 一大	愛知 愛三工業	+11.12
119	内間 康平	沖縄 チームNIPPO	+11.12
139	木下 智裕	神奈川 エカース	+13.33
140	畑中 勇介	東京 シマレーシング	+13.33

## STAGE5 144km (2013/2/15)

1	FROOME Christopher	SKY	3:29.19
2	CONTADOR Alberto	TST	3:29.19
3	RODRIGUEZ OLIVER Joaquin	KAT	3:29.19
42	西谷 泰治	愛知 愛三工業	+1.51
104	鈴木 讓	神奈川 シマレーシング	+12.48
114	内間 康平	沖縄 チームNIPPO	+12.48
134	盛 一大	愛知 愛三工業	+13.23
135	木下 智裕	神奈川 エカース	+13.23
136	佐野 淳哉	埼玉 Vini Fantini	+13.23
139	畑中 勇介	東京 シマレーシング	+20.55

## STAGE6 144km (2013/2/16)

1	BOUHANNI Nacer	FDJ	3:24.20
2	GOSS Matthew	Harley OGE	3:24.20
3	PHINNEY Taylor	BMC	3:24.20
16	盛 一大	愛知 愛三工業	3:24.20
32	西谷 泰治	愛知 愛三工業	3:24.20
84	鈴木 讓	神奈川 シマレーシング	+0.52
98	佐野 淳哉	埼玉 Vini Fantini	+0.58
112	内間 康平	沖縄 チームNIPPO	+2.10
133	木下 智裕	神奈川 エカース	+5.29
134	畑中 勇介	東京 シマレーシング	+6.43

※個人総合成績以外の日本人の競技結果はナショナルチームのみ

# 第7回明治神宮外苑大学クリテリウム

男子は黒枝が連覇、女子は初参加の上野が優勝!



日本学生自転車競技連盟主催 第7回明治神宮外苑大学クリテリウムが、17日に開催された。会場は、学生スポーツの中心地である明治神宮外苑・聖徳記念絵画館前をスタート/ゴールとし、国立競技場や神宮球場、秩父宮ラグビー場などを横目に走る、明治神宮外苑周回コース(1周1.5km)で、全8カテゴリー、総勢約300名が選手として参加、晴天に恵まれおよそ8000名の観客が訪れた。

本大会のクリテリウムは中間スプリントとフィニッシュ着順にポイントが与えられるポイントレース方式で行われた。

男子グループ1は、序盤・中盤・終盤の要所で得点を積み上げた昨年度の本大会優勝者である黒枝士揮(鹿屋体育大学3年)が優勝。

全日本学生ロードレース・カップ・シリーズのリーダーである西沢倭義(明治大学3年)がこのレース2位につけ、

同シリーズの年間総合リーダーの座を勝ち取った。

2年前に大学対抗で優勝したオランダ・アムステルダム大学チームはLars van de Vallが3位に入った。

2011ユニバーシアード・ロードレースの銅メダリスト・山本元喜が5位に入った鹿屋体育大学が、チーム内上位2名の順位合計で競われる大学対抗順位で優勝に輝いた。

女子レースは学生以外の参加可能なオープン形式で行われ、昨年までアジア選手権大会参加などのスケジュールにより本大会に参加できなかった鹿屋体育大学の上野みなみが初参加・初優勝を勝ち取った。

本大会は東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会の後援を受けて開催され、ロンドン・パラリンピック・ロードタイムトライアル銅メダリストの藤田柁樹氏もスペシャルゲストとして

参加し、五輪招致に向けた機運づくりにも貢献した。

大会前日の16日(土)には、大学自転車競技フォーラムが「ドーピング問題にどう向き合うか」をテーマに、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催され、各方面からの参加者を迎えて今日、自転車競技だけでなく、スポーツ界全体の課題となっているドーピング問題について考える場となった。(日本学生自転車競技連盟)

## 【競技結果】

第7回明治神宮外苑大学クリテリウム  
(2013/2/17 東京・明治神宮外苑)

### 男子大学生グループ1

- 1 黒枝 士揮 大分 鹿屋体育大
- 2 西沢 倭義 京都 明治大
- 3 Lars van de Vall アムステルダム大
- 4 山本 隼 山梨 中央大
- 5 山本 元喜 奈良 鹿屋体育大
- 6 辻本 尚希 東京 順天堂大

### 女子

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大
- 2 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大
- 3 小島 蓉子 千葉 日本体育大
- 4 神庭 睦実 鳥取 順天堂大
- 5 高山真由子 東京 竹芝サイクリング
- 6 福本 千佳 大阪 同志社大

### 大学対抗

- |         |     |
|---------|-----|
| 1 鹿屋体育大 | 6p  |
| 2 順天堂大  | 17p |
| 3 中央大   | 20p |

### シリーズ総合成績(門田杯)

- 1 西沢 倭義 京都 明治大
- 2 大中 功基 京都 早稲田大
- 3 佐々木勇輔 埼玉 早稲田大

## 伊藤超短波の製品が日本を代表する選手たちを支えています。

最高のコンディションを保ち、ケガからはより早く回復すること。医療の分野だけではなく、様々なスポーツの現場で、選手のサポートに伊藤超短波の治療器が活躍しています。

NEW



## AT-mini II

ATミニII ポータブル低周波治療器

低周波治療器

管理医療機器(特定保守管理医療機器)  
医療機器認証番号 224AABZX0052000

※本医療機器は専門家の指導のもとにご使用ください



2ch 60g 12時間 3 COMB / PAIN / CARE 3つの治療モード

同時出力 超軽量 連続使用 鎮痛・治療

- COMB(鎮痛+治療) ALLタイムケア: トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的。
- PAIN(鎮痛) ONタイムケア: トレーニング中など、現場で起こった急なアクシデントに。
- CARE(治療) OFFタイムケア: 移動中や休憩中などの体を休めている時に。

製造販売元



伊藤超短波株式会社

東京都練馬区豊玉南3-3-3 www.itolator.co.jp

メディカル事業部

本社: 〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15  
TEL. 03(3812)1216(代)・FAX. 03(3814)4587

# 2013年オーストラリアユースオリンピックフェスティバル

## 1月14日(月)

伊豆ペドロームを出発、成田空港へバスで向かったが、激しい雪のため予定の飛行機には間に合わず、新横浜で1泊。

## 1月15日(火)

何とか成田空港へ到着、1時間後の便でのシドニー行きとなった。直行便の4倍以上の時間を費やし、大会前日にシドニー入りできる運びとなった。

## 1月16日(水)

17時に全員が念願のシドニー入り!ペドロームの確認や自転車の組立、中距離組だけではあったがローラーに乗り汗を流すことができた。

## 1月17日(木)[大会1日目]

オリンピックや世界選と同じく、初日に団体種目の予選・決勝が行われた。昨年10月発足の新チームにおいて、選手・スタッフ共に、団体種目をメインにひたすらトレーニングの強化・育成に努めてきた。4kmチームパーシュートにおいては、合宿での仕上がりが季節的なもの、さらには今回の移動なども踏まえ4分20秒前後のタイムを予測していた。ギアについては、50×14を事前合宿の段階から選択し、それに向けた様々な取り組みをしてきた。予選については、前半は落ち着くこと、2走が上げすぎず3走がペースを作ること、そのペースを一定に保つことを確認しレースに臨んだ(鈴木康平・岡本隼・森口寛己・原井博斗)。事前合宿において繰り返しおこなってきたことを出せる走りであり、もっと高いレベルでの走りを大いに感じさせてくれた。1位オーストラリアゴールド4分17秒395、2位オーストラリアグリーン4分20秒441、3位日本4分20秒670、4位マレーシア4分28秒250であり、目標タイムまで到達することができた。コンマ差で1・2位決定戦進出を逃したのは悔しかったが、それぞれ修正、より良い走りを追求し3・4位決定戦に臨んだ。途中マレーシアチームの落車等があったが冷静に対応し自分たちの走りを最後まですることができ、チームベストの4分19秒028を出した。4チーム参加の銅メダルではあったが、選手はもちろんスタッフにとっても価値のあるメダルとなった。



チームスプリントは、滝本・久保田・野上の番手(ギア49、50×14)。事前合宿では、ルールの変更に伴う走行の改善やトップスピードの強化など徹底して取り組んだ。伊豆では48秒台中盤のタイムが出たので、47秒台を目指しレースに臨んだ。6チームの参加で、1位オーストラリアゴールド46秒607、2位ニュージーランド47秒104、3

位オーストラリアグリーン47秒577、4位マレーシア48秒342、5位日本48秒373で目標タイムまで到達することはできなかったが、チームベストを更新することができた。4位マレーシアとコンマ差だったことがとても悔やまれた。移動に伴う精神的な疲労や様々な要因が重なりチームとしてうまく噛み合わない部分が多くあった。

## 1月18日(金)[大会2日目]

男子オムニアムに岡本・森口・原井、ケイリンに久保田・滝本・野上、女子スクラッチに元砂が出場した。

オムニアムはこの日、フライングラップ・ポイントレース・エリミネーションの3種目。フライングラップでは森口が13秒808で3位、岡本が13秒925で6位、原井が14秒430で14位であった。ポイントレースでは、あえてチームとしての作戦は与えず、それぞれの脚質にあった走りをするように指示した。序盤に岡本や森口が飛び出したりはしたものの決定的な差はできなかったが、後半残り20周前後から原井が集団を飛び出すことに成功、ニュージーランド選手と2人で最後まで逃げ切ることができた(原井1位・岡本7位・森口13位)。エリミネーションは3名とも初レースのため、攻略法を中田監督から伝授されレースに臨んだ。森口・岡本が中盤、イン側に詰まり脚を残しながらエリミネイトされた。原井は巧みなレースを展開し最終まで残ったが、最終周にかわされ惜しくも2位という結果だった。

ケイリンに参加した3名は、外国選手の横の動きや250m走路でのレース展開などに苦しめられイメージ通りのレース展開にならず全員が敗者復活戦まわりとなった。「もう少し早めに動いていたら」、「前の選手との車間を開けずに追走できていたら」とか、仕掛けどころとタイミングさえ合えば対等に戦える手応えはつかめたようだった。野上・久保田の2名が敗者復活戦を勝ち上がり準決勝に進んだ。準決勝において得意の先行に持ち込んだ野上が決勝進出、久保田はスタートで良い位置を取れたが最終コーナーで他の選手との接触もあり準決勝敗退、7-12位決定戦に進み最終順位は8位となった。決勝では、野上が得意とする展開に持ち込もうとするが外国勢に阻まれ



外を踏み続けての4位という結果だった。

女子スクラッチに出場した元砂は、レース後半に2名で集団を飛び出すのが吸収され7位という結果だった。



## 1月19日(土)[大会3日目]

男子オムニアム・スプリント(久保田・滝本・野上)・女子オムニアム(元砂)に出場した。

オムニアム2日目は3kmIP・スクラッチ・1kmTTの3種目。3kmIPでは、全員が自己記録を5秒近く更新しベストな走りではあったが、1kmTTにおいて上位に入ることは出来なかった(森口3分31秒816、原井3分32秒516、岡本3分32秒848)。スクラッチでは、岡本と森口がゴール勝負狙い、原井が中盤以降に逃げることを目標にレースに臨んだ。序盤からハイペースの展開が続き集団がひたかたまりのまま終盤を迎えた。原井が飛び出すとすぐに吸収され、ゴール勝負の展開になった。日本勢は集団前方でラストを迎えたがスパートをかけるタイミングや内に詰まるなどあったが、ゴール勝負狙いの森口が2位、岡本7位、原井8位であった。1kmTTでは、岡本が1分7秒746、原井が1分8秒195、森口が1分8秒442で全6種目を無事に終了した。総合では原井が5位・岡本が8位・森口が9位であった。最後まで集中してレースに臨めたこと、外国勢に対しても臆することなく積極的にレースを展開できたことは、今後の走りに期待が持てる結果となった。

スプリント予選は、16名が参加、野上が10秒978、久保田が11秒331、滝本が11秒375であった。1本勝負の1/8Fでは、全員が外国勢のパワー・テクニックに圧倒され自分の得意とする形にすることができず、予選敗退となった。

女子オムニアム初日、元砂のフライングラップは15秒860で7位だった。ポイントレースでは、中盤にタイミングよく飛び出すことに成功し1位通過、合計7点で4位という結果だった。エリミネーションは、内に詰まり行き場を失う展開になってしまい6位という結果だった。

## 1月20日(日)[大会4日目]

男子スクラッチ(岡本・原井・鈴木)、女子オムニアム(元砂)が出場した。スクラッチでの戦術は、岡本がゴール勝負狙い、鈴木・原井が逃げに乗ることを確認しレースに臨んだ(ギア...岡本50×14・原井52×15・鈴木53×15)。作戦通り、鈴木が前半から単独で集団を飛び出すのが泳がされているような状況。日本でのスクラッチとは違い、常に1列棒状の状態が続くレースは中盤を迎えた。隙を見て、原井がタイミングよく飛び出すも集団がすぐに反応、数周回逃げ

るが吸収されてしまう。ラスト5周を切り集団のままゴールへと向かうが、オーストラリア選手がタイミングよく1人で飛び出す。残り2周、鈴木が落車を避けきれずに1コーナーで乗り上げリタイアとなる。またラスト3周あたりから集団前方4番手付近を確保し、ゴールへと向かう岡本が最終3コーナーで集団先頭のニュージーランド同士の競りあいによる落車に巻き込まれてしまい残念な結果に終わった。完走は原井のみで5位であった。怪我も大事には至らず擦過傷程度で済んだことは、幸いであった。

女子オムニウム2日目は2kmlP・スクラッチ・500mTTの3種目。2kmlPは2分37秒317で7位だった。スクラッチでは、レース終盤の位置取りで、スプリント力のある選手の後ろを確保、そのまま最終を迎え2位という結果だった。500mTTは、39秒531

で自己ベストを更新、昨日の反省を生かしレースに臨んでいる姿が印象的であった。

**1月21日(月)**

往路とは違い、何事もなく全員無事に帰国し関西空港で解団式を行った。

今回の遠征を振り返って、海外レースの経験を多く積むことが日本人選手には必要だと思われがちだが、トレーニング中に勝負にならないと思えるレベルの選手は海外レースに参加しても勝負にならないし、多くの経験を得ることはできない。今回、競争系種目ではどの選手も“勝負できるレベル”であったと思うが、個人のTT系種目に関しては“全く勝負にならないレベル”であった。当たり前なことではあるがトレーニングで出来ないことは、本番で出来ないし、それ以上もないということ。また、精神面でのタフさや私生活、普段の言動など、それらすべてが競技結果に直結していることが伺えた。(ジュニア強化育成部会支援スタッフ 班目真紀夫)

**男子スクラッチ**

- 1 Callum SCOTSON AUS 8:43
- 2 Callum SAUNDERS NZL
- 3 Bradley HEFFERNANAUS
- 5 原井 博斗 福岡 祐誠高校
- 岡本 隼 和歌山 和歌山北高校 DNF
- 鈴木 康平 静岡 星陵高校 DNF

**男子オムニウム**

- 1 Bradley HEFFERNANAUS 21p
- 2 Callum SCOTSON AUS 26p
- 3 Michael RICE AUS 31p
- 5 原井 博斗 福岡 祐誠高校 38p
- 8 岡本 隼 和歌山 和歌山北高校 46p
- 9 森口 寛己 和歌山 和歌山北高校 47p

**男子チームスプリント**

- 1 オーストラリア(ゴールド) 46.924
- 2 ニュージーランド 47.073
- 3 オーストラリア(グリーン) 47.314
- 5 日本 久保田・滝本・野上 48.373

**男子チームペナント**

- 1 オーストラリア(ゴールド) 4:14.084
- 2 オーストラリア(グリーン) 4:22.230
- 3 日本 鈴木・原井・岡本・森口 4:19.028



**女子スクラッチ**

- 1 Josie TALBOT AUS
- 2 Kelsey ROBSON AUS
- 3 Macey STEWART AUS
- 7 元砂七々美 奈良 榛生昇陽高校

**女子オムニウム**

- 1 Josie TALBOT AUS
- 2 Kelsey ROBSON AUS
- 3 Elissa WUNDERSITZ AUS
- 6 元砂七々美 奈良 榛生昇陽高校

**2013年オーストラリアユース  
オリンピックフェスティバル 日本代表選手団**

大会名 2013年オーストラリア  
ユースオリンピックフェスティバル  
開催場所 オーストラリア・シドニー  
大会期間 2013年1月17日～20日  
派遣期間 2013年1月14日～21日  
代表選手団

監督 中田 将次(ジュニア強化育成部会)  
コーチ 佐藤 孝之(ジュニア強化育成部会)  
班目真紀夫(ジュニア強化育成部会)

マネージャー 山脇 靖宏(ジュニア強化育成部会)  
総務 比嘉健太郎(JCF事務局)  
選手 鈴木 康平(静岡・星陵高校)  
原井 博斗(福岡・祐誠高校)  
森口 寛己(和歌山・和歌山北高校)  
岡本 隼(和歌山・和歌山北高校)  
久保田泰弘(山口・誠英高校)  
野上 竜太(岡山・岡山工業高校)  
滝本 泰行(岡山・岡山工業高校)  
元砂七々美(奈良・榛生昇陽高校)

**【競技結果】**

**2013年オーストラリアユースオリンピックフェスティバル  
(2013/1/17-20  
オーストラリア・Dunc Gray Velodrome)**

- 男子スプリント**
- 1 Jeremy PRESBURY NZL
  - 2 Jai ANGSUTHASAWIT AUS
  - 3 Patrick CONSTABLE AUS
  - 野上 竜太 岡山 岡山工業高校 1/8F 敗退
  - 滝本 泰行 岡山 岡山工業高校 1/8F 敗退
  - 久保田泰弘 山口 誠英高校 1/8F 敗退
- 男子ケリ**
- 1 Jeremy PRESBURY NZL
  - 2 Callum SAUNDERS NZL
  - 3 Muhammad Firdaus MOHD ZONIS MYS
  - 4 野上 竜太 岡山 岡山工業高校
  - 8 久保田泰弘 山口 誠英高校
  - 滝本 泰行 岡山 岡山工業高校 1回戦敗退

**連盟の動き (1月～2月)**

- 1月11日 オーストラリアユースフェスティバル直前強化合宿 於：静岡・伊豆ベロドローム(～14日)
- 13日 12-13年トラックワールドカップ第3戦日本代表選手団出発 於：メキシコ 帰国→21日
- 14日 オーストラリアユースフェスティバル日本代表選手団出発 於：シドニー 帰国→21日
- 24日 トラック選考強化合宿 於：静岡・伊豆ベロドローム(～27日)
- 25日 ジュニアロード強化合宿 於：沖縄・宮古島(～29日)
- 27日 第4回選手強化委員会 於：静岡・伊豆ベロドローム(～27日)
- 31日 2013年ツアー・オブ・カタール/ツアー・オブ・オマーン日本代表選手団出発 帰国→2/17
- 2月1日 ジュニアトラック強化合宿 於：静岡・伊豆ベロドローム(～5日)
- 5日 第4回常務理事会 於：東京・日本自転車会館3号館4階
- 15日 2013年トラック世界選手権大会日本代表選手団出発 於：ペラルーシ・ミンスク 帰国→26日
- 15日 第3回アンチ・ドーピング委員会 於：東京・日本自転車会館3号館3階
- 20日 第3回総務委員会 於：東京・日本自転車会館3号館3階
- 22日 アジアジュニア選手権トラック直前合宿 於：静岡・伊豆ベロドローム(～24日)
- 22日 中距離トラック強化合宿 於：静岡・伊豆ベロドローム(～25日)
- 28日 第8回広報部会 於：東京・日本自転車会館3号館3階

**今後の大会予定**

期日	大会名	種目	場所
3月7日～17日	アジア自転車競技選手権大会/アジアジュニア自転車競技選手権大会	TR/RR	インド/デリー
3月17日	九州チャレンジサイクルロードレース2013	RR	熊本/五木
3月21日～24日	平成24年度全国高等学校選抜自転車競技大会	TR/RR	福岡/北九州市、熊本/山鹿市
4月7日	第38回チャレンジサイクルロードレース大会	RR	静岡/日本CSC
4月13日～14日	第2回全日本選手権トライアル in 新城	TRIAL	愛知/新城

## 各強化合宿など

トラック代表選考合宿  
(1月24～27日 伊豆ペロドローム)



ユースオリンピック直前合宿  
(1月11～14日 伊豆ペロドローム)



ジュニアロード強化合宿  
(1月25日～29日 宮古島)



U23 ロード強化合宿  
(12月10～14日 鴨川)



## 日本新記録

## ■ 男子フライングスタート・200m

男子エリート	9" 702	中川誠一郎 (JPCA・JPCU熊本)	2013/01/19	メキシコ・アグアスカリエンテス
男子エリート	9" 850	渡邊 一成 (JPCA・JPCU福島)	2013/01/19	メキシコ・アグアスカリエンテス
男子エリート	9" 902	河端 朋之 (JPCA・JPCU岡山)	2013/01/19	メキシコ・アグアスカリエンテス

## ■ 女子フライングスタート・200m

女子エリート	11" 014	前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)	2013/01/18	メキシコ・アグアスカリエンテス
女子エリート	11" 163	石井 寛子 (東京・日本競輪学校)	2013/01/18	メキシコ・アグアスカリエンテス

## ■ 女子チーム・スプリント・250m×2

女子エリート	34" 805	日本 (前田佳代乃、加瀬加奈子)	2013/01/17	メキシコ・アグアスカリエンテス
--------	---------	------------------	------------	-----------------

無限の夢へ、走りだそう。



# RING!RING! プロジェクト

競輪の補助事業



男子スプリント予選の渡邊



男子スプリント予選の中川



男子スプリント予選の河端



女子500mTTの前田



男子ケイリンの新田



ベラルーシ大統領  
アレクサンドル・ルカシェンコ



女子ポイントレースの石井

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.197 2013年2月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟  
 発行人/橋本聖子  
 編集人/塚本芳大  
 編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局  
 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内  
 TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>



この資料および〇〇の表示がある事業は、JKAから競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。  
 © (財)日本自転車競技連盟 2013 本紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。  
 ※本誌「シクリスムエコー」定期購読をご希望の方は編集事務局までお問合せください。

＝シクリスムエコー読者のみなさまへ＝ 本誌についてのご意見、ご感想、ご要望等を編集事務局までお寄せください。